

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ) レイタクダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) エンマルゼミ
麗澤大学	経済学部	圓丸ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ)	フリガナ) サトウナツキ	8人	無
マーケター	佐藤菜月		

研究テーマ（発表タイトル）

沖縄県活性化のための新たなブランド構築提案

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

沖縄県は、現在観光客数を順調に伸ばしている一方で、高齢化による零細農家の増加や若者の島離れにより農業の将来性が危ぶまれており、経済状況は今なお不安定な状況である。また、第3次産業の割合が高く、農業・漁業・畜産を含む第1次産業の産業全体に占める割合は大きくない。観光産業が盛んになっていく中で、観光消費額の伸び悩みや外国人観光客の割合の低さが問題視されており、その打開策として外資系ホテルの増加や国際観光客の呼び込みなど外国人向けにシフトしてきている。沖縄県独自の産業活性化のため、沖縄県の農業に対し、マーケティングの視点から新たなブランドを提案する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在の沖縄県の暮らしを支える大きな産業は観光産業であるが、外資系ものが増加傾向にある。

その反面、農業の割合は少ない。

第三次産業が沖縄の産業を占める今、その収益の多くは外資に取られてしまい、国内の収益が少ない。そのため賃金の格差が埋まらないという現状がうかがえる。農業では果実、畜産などは収益は増加現象に見られる。しかし、観光客向けに作ってしまうと沖縄県自体の活性化は見込めない。まずは、沖縄県内で物産を盛り上げていき、沖縄県のブランドを生み出すことで観光客に向けることで沖縄県内の収益が見込める。

3. 研究テーマの課題

大きな問題点は、外資系に収益を取られてしまい沖縄県自体の収益が入ってこないため、経済がうまく循環していないことが沖縄県庁とのヒアリング調査にて見えてきた。また、そのなかでも、沖縄県独自の産業活性化のため、農家では農協、農園、沖縄県庁のヒアリング調査により以下の4点が分かった。

①農業就業人口の低下・農家の高齢化による労働力不足

②台風や干ばつなどの自然災害の常習

③出荷コスト等の負担

④零細農家が多く経営基盤が脆弱

主にこの四点が挙げられた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

【コーヒー栽培、販売の利点】

- ・ コーヒーは干ばつや災害に強く、ビニールハウス等で自然災害全体に対応可能
- ・ 在庫管理により、自然災害があっても安定供給が見込める
- ・ 木を植えてしまえば栽培が他の青果物に比べて容易（高齢者の増加に対応）
- ・ コーヒーは単価を下げずに売ることができるため元を取れる。

↓

- ①県内で国産コーヒーを生産販売していく
- ②コーヒーの生産販売を筆頭に、農業の安定した経営基盤の確立
- ③物流コストを考慮し、まずは県内でのブランディングを確立
- ④観光客増加に伴い、外国人向けにも観光地やホテルなどでテスト販売

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

- ヒアリング調査

6/16 企業ヒアリング

9/12 沖縄県県庁

9/13 現地農家

9/14 沖縄県農業協同組合

6. 結果や今後の取り組み

< 調査結果 >

企業ヒアリング

- ・ 第4ウェーブ（自宅焙煎）の広がりにより、新たなコーヒーブームが来ているということ
- ・ 海外の豆を輸入する際、港に定刻どおりに本来の商品が届かないことが未だにあるということ

沖縄県県庁

- ・ 沖縄コーヒーを飲む場所があまりなく、十分な生産量も確保できていないため認知が低い

現地農家

- ・ コーヒー栽培は手間がかからない
- ・ 干ばつにも強い
- ・ お土産用にも、その場で飲むこともできる
- ・ マンゴーなどの青果物は、収穫後すぐに買い手がいなければ、鮮度が落ち売り物にならないが、コーヒーは収穫してから数年は備蓄することができるため、災害や需要の変動にも対応しやすい

沖縄県農業共同組合

- ・ 高齢者にとってマンゴーなどの栽培は重労働になるため難しい

<今後の取り組み>

①現地のコーヒー農家と引き続きコンタクトを取り、生産能率の向上を研究。他大学(農業系)との連携も視野に入れていく。観光地やホテルでのテストテイスティングを実施していく。

②沖縄県内の若者へアンケート調査を実施。県内での就職についてや、農業に対しての実情を把握する。

7. 参考文献

- ・ "気象災害の特徴". 予報業務の紹介. <http://www.jma-net.go.jp/okinawa/menu/syokai/yoho/saigaitoku/saigaitoku.htm> (参照 2016-09-25)
- ・ "自然災害などに対する安全性の確保". 国土交通省. <http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha04/01/010618/74.pdf> (参照 2016-09-25)
- ・ "沖縄は、鉄巻発生率 日本一!". うるま市. <http://www.city.uruma.lg.jp/tiiki/153/1578/1581/1821> (参照 2016-09-25)
- ・ "竜巻発生率、沖縄が全国トップ". 琉球新報. <http://ryukyushimpo.jp/news/preentry-92456.html> (参照 2016-09-25)
- ・ "台風か干ばつか". 沖縄県 国営宮古土地改良事業 - 水土の礎. <http://suido-ishizue.jp/kokuei/okinawa/miyako/0203.html> (参照 2016-09-25)
- ・ "台風被害の総額、既に前年越え" 沖縄タイムス <http://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/18083> (参照 2016-09-26)
- ・ "沖縄農業の特色". 沖縄総合事務局. <http://ogb.go.jp/nousui/nns/c1/page2-1.htm> (参照 2016-09-25)
- ・ "II 農業の部". 内閣府 沖縄総合事務局. http://ogb.go.jp/nousui/statistics/nenpo/44jinenpo_2.pdf (参照 2016-09-15)
- ・ "沖縄の耕地面積について". <http://www.ogb.go.jp/teireikaiken/h24-1115/menseki.pdf> (参照 2016-09-25)
- ・ 農林水産省「農林業センサス」 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2015/top.html> (参照 2016-09-25)

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。